Beyond 5G 推進コンソーシアム　企画・戦略委員会
ビジョン作業班（第２回）「2030 年社会検討ワークショップ」議事要旨

１．日　時：　令和３年６月 15 日（火）15:30～17:00
２．場　所：　ウェブ会議（WebEx）
３．出席者：
中村主査（NTT ドコモ）、
ビジョン作業班　小西リーダー（KDDI）、永田サブリーダー（NTT ドコモ）、
技術作業班　中村リーダー（富士通）、下西サブリーダー（NEC）、
WP5D 対応 Ad hoc　菅田主査（KDDI）、武次副主査（NEC）、
ほか、通信事業者、メーカ等、計 79 名
（事務局）総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室
五十嵐室長、江原課長補佐、丸橋係長、守屋係長、杉山官

４．議事要旨
冒頭、会議開催に先立ち、小西リーダーから挨拶があった。

（１）前回会合（第２回）の議事要旨について
事務局から、資料１　B5G コンソーシアム白書分科会第２回議事要旨案について説明の後、出席者からの承認を得た。

（２）これまでのまとめと業界マップについて
永田サブリーダーからこれまで開催された白書分科会の議論のまとめと業界マップについて説明。

（３）提案各社プレゼンテーション
２者からユースケースのプレゼンテーションを行った。

①　一般社団法人テレコムサービス協会（竹上氏）
永田サブリーダー：下敷き型に閉じる必要はなく、何でもディスプレイになる可能性がある。デバイスを身に着けるだけでなく、空間を利用してコミュニケーションが可能ではないだろうか。
CTC 佐藤氏：アバターを通じてのコミュニケーションに加えて、ホロポーテーションでのコミュニケーションも可能ではないか。４Ｇ、５Ｇで実現できないことを考えた。

KDDI 菅田氏：１対 N 通話はラジオのようなものを想定しているか。アバターは個人が醸し出す特徴まで表現できるのか。現時点のイメージは如何。

テレコムサービス協会竹上氏：１対 N 通話は、ラジオのイメージではなく、あくまで通話ツール。一つのデバイスで複数人との会話を可能にする。話し相手の名前を呼びかけると自動的に話相手に接続されるイメージ。アバターは VR 技術の発展により、誰でも自身のアバターを簡単に作成でき、自身の顔替わりに使用するイメージ。

小西リーダー：なぜこれが欲しいのか、ニーズの背景を伺いたい。

テレコムサービス協会竹上氏：現在はスマートフォンが主流だが、現在無い形のデバイスが流行するのではないかと、内部のディスカッションで意見が出た。スマートフォンは盗難のおそれもリスクもあるため、持ち運びしやすいペーパー状のデバイスが良いと思った。

② 国立研究開発法人産業技術総合研究所 HCMI コンソーシアム（谷川氏）

KDDI 菅田氏：2030 年頃の社会をイメージするのに非常に参考となるプレゼンで有用な情報だ。AI は人間が作りこむ必要があると考えている。インプットとアウトプットの間をどう作り込むかが重要。また、環境等から集める膨大なデータ量のため多くの機器を配置する必要がありそうで、そのためにどれだけの電力等のエネルギー・作業が必要と考えているか。全体システムとして上手く機能するようにさせるのに、総合的なバランスを見る必要があるように思う。

HCMI 谷川氏：当然、ストレージや AI には電力が必要。ただ、全てのデータをサイバー空間に取り込むことは不可能なため、まずはモノの動きを可視化することが、需要と供給をマッチングさせるために重要である。

永田サブリーダー：どの程度、需要と供給をトラッキングするのか。また、どこまで予測するのか。

HCMI 谷川氏：具体的なアイデアは難しいが、Facebook といった SNS のデータを活用することが考えられる。個人情報に配慮はしつつも、データが揃えばある程度の予測はできる。SDGs の考え方を基に、消費できる量を生産する方法が望ましい。

小西リーダー：グローバルの定義如何。消費の場合、材料もグローバルよりもローカルで消費した方が、電力的にも効率的な場合もあるのではないか。

HCMI 谷川氏：グローバルの考え方は一例。御指摘のように、ローカルで消費する方が効率的な場合もある。工場を遠隔操作する場合、遠隔操作者の居住国と時差をうまく利用することで、24 時間無理なく稼働させることも可能。

小西リーダー：今の技術でできないのは何が足りないからと考えるか。

HCMI 谷川氏：遠隔操作の場合、リアルタイム性をいかに担保できるかが重要。

（４）ディスカッションについて

永田サブリーダーから、2030 年社会検討ワークショップの進め方案を説明の後、質疑応答を行った。

小西リーダー：色んな業界の方に声掛けする際には、2030 年の社会像というと身構えるかもしれない。数年先の話でも構わない。課題や思っていることなどを発表してもらえば良いのではないか。

フジテレビ清水氏：会社としてのオーソライズを求められると発表しにくい。個人として語るのも良いのではないか。

永田サブリーダー：各業界の代表や会社でオーソライズされた立場というと話しづらいこともあるため、どういった立場で話してもらうか配慮する必要があるのではないか。

埼玉医科大学総合医療センター奥氏：10 年では変わらないことも多い。業界分野によるため、2030 年という数字に縛られなくてもよいのではないか。また、各業界の名前を背負うと、話しづらくなると思うため、責任をもって話すものの、個人の意見として話した方が建設的な議論ができるのではないか。

事務局：社名、団体名に縛られず、個人の意見として出してもらうなど柔軟に対応した方がより意見が出やすくなるのではないか。

埼玉医科大学総合医療センター奥氏：同意。業界によっては、社名、団体名があることによって発言がしづらくなるため、個人の意見、責任として発言してもらう方が良い。

永田サブリーダー：今後、提案の募集の仕方は幹部会のメンバーで相談して決めていく。進め方案１を若干変更し、2030 年にこだわらず将来の社会像、ビジョンや各業界における課題は提案者に発表してもらい、その他の内容は発表者に任せる。

小西リーダー：白書の監修に当たっては、白書分科会メンバーと発表者を担当ごとに割り振り、白書の執筆、ヒアリングを行う。白書の作成は分科会メンバーが行ってはどうか。

中村リーダー：概ね同意。白書の作成作業に取りかかってから詳細については決めたい。

（５）今後のスケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて説明。第３回白書分科会は６月 22 日

（火）15：00-17：00 に開催予定。第２回社会検討ワークショップは 7 月 20 日（火）15：00-17：00 開催予定。

以　上